

# まんたら通信

第190号 (通巻226号)

平成24年04月 西暦2012年 佛暦2578年 皇紀2672年

安房国八十八ヶ所 第一番札所  
295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口 1084  
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉  
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺  
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040  
<http://www.shiunji.org/>  
Mail post@shiunji.org



## お釈迦さまのお誕生日

桜前線の北上とともに、日一日と春らしく、過ぎ易くなるこの季節。好不況に関わらず心が浮き立ち「ああ、また桜を見ることが出来た」と、生きてきたこの一年に何故か感謝したい気持ちになります。

四月八日、北インド、タライ盆地のシャカ族が住むカピラヴァストウという小国に、王子がお生まれになりました。

この王子こそ成道してシャキヤムニ、お釈迦さまと呼ばれるブツダその人です。因みに、南の仏教国では悟りを開いたブツダだけが信仰の対象ですから、悟りを開く前のお釈迦さまを礼拝することはありません。

ともあれ、お世継ぎの誕生を今か今かと待ちわびていた国中が、お祭りムードになったことは想像に難くありません。

王様のお名前はシュッドダナ、母君はマハー・マヤー王妃。「王様」は専制君主ではなく恐らく貴族会議の長、今で言えはその立場は族長の呼び名が相応しいのではないかと、歴史学は教えています。

出産間近の王妃さまは里帰りの途中、王の花園ルンビニに立ち寄り花々の間を散策している時に王子をお生みになりました。「神々がその周りに集まり、天女が樂を奏でる中、とあるブラクシャの木

の枝に手を伸ばされた時、その右の脇からお生まれになりました。インドラとブラフマン（どちらも最高位の神です）が恭しく前に進み、カーシー産の最上の産着に抱き上げました。龍王は甘露を注ぎ、お身を清めました。シュッドダナ王は一族を集めて会議を開き、サルヴァールタシツダ（シツダールタとも）と名付けました。」と。

佛典はこのように伝えていますが、このお名前は、すべてのが皆成就する、という意味だそうです。

これは二千五百年前のことですが、西暦六二九年から16年間、国禁を犯し命を懸けて巡礼と仏教研さんの大旅行を果した、西遊記のモデル玄奘三蔵の大旅行記『大唐西域記』には、「釈尊がお生まれになった場所には、幾つかの僧堂があつて僧達が修行に励んでおり、近くには龍王が産湯を奉つた池がある。傍らにはアシヨカ大王が巡礼に来た時に立てさせた標柱があるが、落雷によって倒れている。」

たブツダだけが信仰の対象ですから、悟りを開く前のお釈迦さまを礼拝することはありません。

その告文は「私アシヨカ大王は」即位二十年の後自ら来て礼拝し、ここは仏陀シャキヤムに誕生されたところであるから、石の馬の像を作らせ、石の柱を建てさせた。

世尊バガヴァンが誕生されたところであるから、地租を免じ八分の一税のみを課する」と彫つてあるそうです。

35〜6年前、栗山秀純先生が催した佛蹟巡拝に、豊山派のお坊様たちにくつついてネパール・インド・スリランカを、生まれて初めて二週間かけて旅行しました。

ルンビニは現在ネパール領になっていますが、首都カトマンドゥから延々と埃だらけの道を辿り着いた、広い平原の中に小さな石造りのマヤ堂があり、傍らに大きな菩提樹が茂つていて、後ろには沐浴のための石造りの大きな池がありました。

「私の国では、どこからでも神々が住むヒマラヤの山々が見えるのだよ」とお釈迦さまが人に漏らしていたと佛典にいうように、遙か北には雪を戴いたヒマラヤ山脈が東西に横たわり、ここであの釈尊がお生まれになったのかと、言い知れぬ感動に浸った記憶があります。

今日はその四月八日。

例年通りのささやかな花御堂を作り、お誕生の仏陀を安置しました。

近くの人達が三々五々お参りに来ています。

との記述があります。

一八九六年にインド政府の命令で、ドイツの考古学者フューラーが見つけるまでの長い間、学問的にはその場所が不明になっていました。

フューラーは、ジャングルに覆われた場所でもマヤ堂を見つけ、『大唐西域記』に示されたアシヨカ大王の標柱の告文を読むことによつて、ここが正しくご誕生の場所であることを突き止めました。

その告文は「私アシヨカ大王は」即位二十年の後自ら来て礼拝し、ここは仏陀シャキヤムに誕生されたところであるから、石の馬の像を作らせ、石の柱を建てさせた。

世尊バガヴァンが誕生されたところであるから、地租を免じ八分の一税のみを課する」と彫つてあるそうです。

35〜6年前、栗山秀純先生が催した佛蹟巡拝に、豊山派のお坊様たちにくつついてネパール・インド・スリランカを、生まれて初めて二週間かけて旅行しました。

ルンビニは現在ネパール領になっていますが、首都カトマンドゥから延々と埃だらけの道を辿り着いた、広い平原の中に小さな石造りのマヤ堂があり、傍らに大きな菩提樹が茂つていて、後ろには沐浴のための石造りの大きな池がありました。

その告文は「私アシヨカ大王は」即位二十年の後自ら来て礼拝し、ここは仏陀シャキヤムに誕生されたところであるから、石の馬の像を作らせ、石の柱を建てさせた。

世尊バガヴァンが誕生されたところであるから、地租を免じ八分の一税のみを課する」と彫つてあるそうです。

35〜6年前、栗山秀純先生が催した佛蹟巡拝に、豊山派のお坊様たちにくつついてネパール・インド・スリランカを、生まれて初めて二週間かけて旅行しました。

ルンビニは現在ネパール領になっていますが、首都カトマンドゥから延々と埃だらけの道を辿り着いた、広い平原の中に小さな石造りのマヤ堂があり、傍らに大きな菩提樹が茂つていて、後ろには沐浴のための石造りの大きな池がありました。

## 余滴

◆4月になったのに一向に春らしい暖かさになりません。今朝は3℃まで下がっていました。うとうとするような陽気が早く来ないかと、骨が皮を着ているような、体重43キロのじいさまは、そればかり待っています。

◆仏教では『降誕会』『仏生会』などといいますが、花祭りと呼ぶ方が、より親しみを感じます。屋根を葺く土は、以前お祈所の田んぼの土でしたが、休耕田ばかりになってしまいましたので、仕方なしに菜園の土を工夫して使っています。沢山の花は名倉の親戚で、畑を片づけずわざわざ残しておいてもらったものです。

毎年、子供たちが手伝いますが、泥んこも花も大好きですから、それはそれは賑やかです。◆毎月転載させていただいている『にっぽん人情小噺』は、心待ちしている人が大勢いらっしゃると思います。特に今月のお話しは、人情が人の心を突き動かす力になるといふ、胸にぐっと迫るお話でした。

沢山売れてお金が増えることが一番、という今の世の中で「正しいことを伝えたい」と、時流に媚びず出版を続けるMOKUという出版社に、いつも心から感謝しています。

掲載している記事も書き手も一流

ですし、使っている用紙にも心配りが現れています。丁寧な正しい日本語で応対する電話口の女性の態度を見ただけで、品格の高さがわかります。

◆アケビ【アケビ科アケビ属】あけび山、少年の日の、道はあり。久し振りに里帰りの、嘗てのやんちゃ坊主の秋の句と読めますが、その花もまた捨て難い美しさがあります。

手前が一番目立つのが雌花、向こうに小さく群れて咲くのは雄花だそう。この季節、ヒュルヒュルと勢い良く伸びる若芽を、雪国では『木の芽』といって、浸し物にします。ほろ苦さとパリパリとした食感が好きです。

2012/04/09 龍渉





# につぼん人情小噺

三遊亭鳳豊

## 第七十五話 ボランティア

東日本大震災から早いもので一年以上が過ぎましたが、復興というものはそんなに簡単なことではありませんね。

私も「みやぎ聞き書き村」の村長の境数樹さんの車で、何回か被災地へ連れて行っていただきましたが、正直、何も感想を言えませんでした。被災者の方々の本当の悲しみは東京に住んでいる私にはわかりっこないですからね。

あれから一年経って何か変わったかという、実は、去年に比べて、圧倒的にボランティアの人たちの数が減ったそうです。その原因は、金銭的なものが多かったようです。気持ちはボランティアを続けたいと思っても、自分の仕事をしないで被災地に行くわけですから、一所懸命、被災者のために尽くせば尽くすほど、自分の生活が苦しくなるというわけです。

わが身を顧みず、自分の貯金を切り崩してボランティアを続けていた人が、とうとう貯金が底をついたので、泣く泣く被災地を離れたなんていう話を聞きますと、結局は、ボランティアするにもお金が必要なのかと複雑になりますね。

被災者のために、一所懸命活動してくれているボランティアを助けるボランティアが必要なんですよね。被災者のための募金が一段落したら、今度はボランティアを支える募金を始めたらどうなんでしょうかねえ。今日は、そうした募金活動をしたある男の先生の話をご紹介します。

その先生は愛知県の方なのですが、いつも京都でボランティア活動をしていまして、その日も京都駅前で行われる募

金活動に参加することにしました。約束の時間通りに集合場所に行くと、顔なじみの幹事の先生が待っていました。「先生、いつもお世話になってます。今日もご苦労様です。よろしくお願いします」「こちらこそ。で、段取りはどうなっているんですか?」

「はい、ここで集合して、それぞれ三人ひと組になって募金活動をしてもらうのですが、先生は地元的女子高校生二人と組んでください」

「わかりました」  
そう言って、募金箱を受け取ったのですが、一緒に組むという女子高校生が見当たしません。おかしいなあ、もう来てもいいころなんだけど……。

京都の先生も首を傾げています。「いいですよ、一人でもやるから。募金する場所、決まっているんですよ。じゃあ、女子高校生が来たら、そこへ連れてきてください」「すみません、じゃあ、よろしくお願ひします」

先生は、しようがないなあ、京都駅前なんだから、間違えるわけがないのになあと思いながら、決められた場所に立ちました。

すると、間もなく、こつちに向かって歩いてくる二人の女子高校生が見えました。でも、先生のイメージとは、まったくかけはなれていました。まつ毛は長く、口紅は塗っている。指の先はネイルでぎらぎらしていました。

「おはよう、君たちはボランティアに来たの?」

一人は挨拶を返したものの、もう一人は、ブスツとしていました。

先生は、それでも自己紹介をした後、彼女たちにボランティアに来た理由を訊ねました。

すると、さつきブスツとしていた女の子が、いかにも面倒臭そうに言ったのです。

「先公に言われたから」。

先生のことを「先公」と呼んだので、その先生は一瞬、ムツとしたのですが、自分の教え子ではありません。しかたなく、もう一人の子に「先生が何て言ったの?」と聞きました。すると、二人とも学校の成績が悪いだけでなく、態度もよくないので、本来ならこのままでは進級できないけれど、今日、ここでボランティアをやれば単位をあげると言われたので、しかたなく来たというのです。

先生も先生だ、何を考えているんだ!と思いましたが、いま、そんなことを言っている場合ではありません。

「わかった。じゃあ、今日一日、よろしくね」と言って、先生は駅の乗降客に向かって、「お願ひします!」を続けました。でも、この女生徒たちは、「お願ひします」のひと言も発しません。相変わらず、無然とした顔で、通り過ぎる人々を眺めています。まさに、時間さえ過ぎればそれで単位ももらえると思っているようでした。

一時間も経ったころでしょうか。先生がふと気付くと、その二人の目から大粒の涙が頬を伝わっているじゃありませんか。目のまわりも化粧が崩れて汚くなっています。

泣きたいほど、つらい仕事なのか!だったら帰れ!

先生はそう思っ、彼女たちを睨みました。ところが、そうではありませんでした。

きつかけは、ひとりの品のいいおばあちゃんが彼女たちの箱に一万円札を入れて、「はい、お嬢さんたち、これをお願ひしますね」と言っ、彼女たちに深く頭を下げたのだそうです。女子高校生たちは、この「お願ひします」という言葉とそのお辞儀に胸が詰まったのです。自分では不貞腐れてやつているのに、そんな自分たち

にも頭を下げて「お願ひします」と言ってくれたおばあさんの態度が、心の琴線に触れたのでしょうか。

これまで生きてきた十六、七年、誰からも期待されず、「冗談じゃねえや」と精神一杯突っ張ってきた彼女たちにとつて、自分に向けて言われた「お願ひします」というひと言がうれしかったのです。周りが無視するこんな私でも、やることがあるんだ。期待されているんだ。そう思ったなら、胸が一杯になったそうです。おばあさんだけではありません。次の人も千円札を出して、「お願ひします」と言っ募金箱に入れてくれる。また、次の人も……。お願ひしているのはこつちなのに。

募金活動を終えて帰ろうとした先生に彼女たちは、泣きながらこう言っただけです。

「先生、今度、また何か私たちにできることがあつたら、言ってください」

そして、彼女たちは顔だけでなく心の化粧まで落とし、先生のボランティア活動に積極的に参加し、やがて、二人とも卒業していききました。

余滴の続き ◆千葉県のタケノコから、基準を僅かに超えたセシウム137が見付かったので出荷停止だそうです。一年1ミリシーベルトという基準は、ICRPという団体が「出来ることならこうあつた方がよい」というポリシー、つまり考え方のなれから、この数字にこだわること失うマイナスを考えれば、政府がすぐにもすべきことは、もつと緩やかな非常時の基準を設けることで、これによつて、幼い子供のご両親、農家や漁師さんが安心して、そして何よりも原発からの避難を余儀なくされている人達が安心して故郷に帰り、普段の暮らしを取り戻すことが出来るようになるからです。緩やかにすると危険になる、という人達によると10万人当たり1人増える「かも知れない」という程度なのです。つまり、私も一人として考えることが1回ある場合もある、ガンで亡くなる人が10万人増える場合もある、という話なのです。亡くなる人10人のうち3人がガンという日本では、基準を緩やかにする利益の方が遥かに大事だと思っのです。